

例会 NO. 417
NO. 9-46 1999. 6. 20 発行
(例会日: 1999. 6. 9)



1998~1999年度R1テーマ
ロータリーの夢を
追いつけよう



Weekly Report

国際ロータリー第2750地区 東京多摩グリーンロータリークラブ

1998~1999年度クラブ目標 " 心と心のふれあい " (HEART TO HEART)

司会 SAA委員 委員長 宮本 誠
◎点鐘 会長 杉田 誠
◎国歌斉唱・ロータリーソング「それでこそロータリー」
ソングリーダー 会員 菊池 敏
◎お客様紹介 会長 杉田 誠
岡山西南RC 椎原 裕二様
米山奨学生 呉 凱文様

◇委員会報告◇

◎会務報告 会長 杉田 誠
来週例会日は、6月20日に振り替えになりますが、理事会は6月16日水曜日に行われます。なお、会報の前回会務報告中で、最終例会のプログラムが佐伯幹事の主催とされていますが、佐伯幹事に一任するとの趣旨です。

◎幹事報告 幹事 佐伯 和廣
* 5月30日に多摩青年会議所主催、当クラブ協賛で「わんぱく相撲」が行われました。
* 本日、最終例会に出席の会員配偶者の最終チェックをしています。
* 来週例会日の6月20日の例会場所は、パルテノン多摩小ホール、登録は正午から午後1:00までです。
* 6月20日の多摩RC30周年記念音楽会の入場券を本日配布しております。
* 理事会が6月16日午後6:00から事務局で、新旧役員引継ぎが同日午後7:00から「たまつばき」でおこなわれます。

◎次年度会務報告 次年度副会長 小坂 一郎
* 被選理事会を本日午後6:30から事務局で、第3回被選クラブ協議会を6月23日午後6:00から「三代目」で開催します。

◎出席報告 出席委員会委員長 村上 久

会員総数	出席義務者数	出席者	出席率
49名	48名	40名	87.50%
6/2 訂正出席率		77.08%	
5/26 最終訂正出席率		93.75%	

欠席者…福田寿夫、猪俣末男、小林和夫、中山恒武、宿院利幸、高村弘、高野範城、海野栄一
メイクアップ…遠藤立一: 6/7 ガバナー月信委員会
小林和夫: 6/9 地区R財団セミナー
海野栄一: 6/9 地区R財団セミナー

◎ニコニコBOX 親睦活動委員会委員長 平野 行廣
伊藤 英也 ロータリー財団の寄付をよろしくお願ひします。
北村 幸彦 皆さんようこそ。だいぶ暑くなりましたね。
森田 舞子 最近は欠席がちでご免なさい。でも、今日は本当に暑いですね!!
遠藤 二郎 藤本さん シングル入り御目出度う。
根本 泰守 先週親睦活動委員会の打合わせの釣銭です。
池田 光夫 卓話楽しみにしています。
平野 行廣 桧垣さん、昨日はごちそうさまでした。
本日の合計 金12,208円 (累計1,284,770)

◎お知らせ 次年度親睦活動委員長 根本 泰守
本日例会後当ホテル内で、次年度親睦活動委員会の打合わせを行います。

◎お知らせ ゴルフ同好会・幹事 藤本 吉文
明後日、杉田年度最後のスクラッチ会を東京国際カンントリーで行います。懇親会及び表彰式もあります。

◎ロータリー財団表彰

同財団委員長 伊藤 英也

・杉田会長から、田中実会員に3回目のマルチプル・ポールハリス・フェローの表彰が伝達された。



・杉田会長から、檜垣昭会員にベネファクター表彰が伝達された。

◎5年連続100%出席表彰 出席委員会委員長 村上 久

・杉田会長から、杉山英巳会員に5年連続100%出席表彰のバッジが授与された。

◎卓話「家庭でできる地球温暖化対策について」

当クラブ環境保全委員長 戸田 寿昭様

卓話は、先ず、地球温暖化問題から説き起こし、地球の温暖化がどうして起きるのか、地球の温暖化の現象の現れに触れ、地球温暖化が進むとどうなるかとして、予想される現象に、①海水面の上昇による沿岸地域の浸食や低地の水没、②異常気象による集中豪雨、干ばつ、洪水、③農産物の減収による食料パニック



の発生、④自然生態系の変化で絶滅する種が増加、⑤伝染病、熱射病の発生が急増し人体に影響するなどの異常現象により、地球のシステムを根底から変更する危険が指摘されているという。そこで、地球温暖化への対応として、その原因のCO₂の排出量の抑制が緊急の課題となり、1988年に国際環境計画が創設され、多くの国際会議が持たれている。地球温暖化への対策として、規制的政策のほか、経済的政策があるとし、経済的政策の一つに、環境税の構想があるとする。卓話者の専門の税の観点から、環境保護の問題に触れた後、CO₂の排出量中、家庭からのものが占める割合も小さくないことが分かるとし、われわれ一人ひとりの消費生活行動に注意する必要があると力説し、われわれ個人ができる行動としては、①自家用車をエコカーに変える、車の使用を抑制する、②無駄なエアコンを中止する、基準温度を抑制する、③住宅を断熱効果のある家にする、④太陽熱温水器を使用する、⑤フロ、シャワー、給湯器の使用に工夫を加える、⑥家庭ゴミの減量をする、⑦使い捨ての商品や容器を使わない、⑧植樹植

林をする、などが考えられるとする。電気のスイッチをこまめに消すような、一見ケチと見られる行為に努めるという、頭の切り替えが必要であると結論した。

(なお、戸田委員長の卓話内容の別刷りは、別途、会員全員に配布されます。)

◎点鐘

会長 杉田 誠

会員リレートーク 第25回 赤尾 恭雄会員

モラルハザード (倫理観の欠如)

「親しき仲にも礼儀あり。」この単純で明快な言葉は、古くから人間関係の友好的な維持と相互信頼に欠くことのできない倫理訓として心の隅に認識しながら、何時しかその重みを忘れかけてはいないだろうか。

ロータリーでは、異なる職業を持ち、生活環境・政治観・宗教観等をも異にする人々が一堂に会し、互いに胸襟を開いて交流し、それぞれが自らの知識と体験を交換し合いながらロータリー思想を学び続ける事を推奨しているが、それに会員同士が相互に相手の人格を尊重する謙虚な姿勢がなければ実現し得ないことである。

我々は、クラブ創立から約9年の時間的経過の中で、親しさのあまりに、また親しさを演出せんがために、このことの重みを忘れ、或いはこれを無視するが如き言動さえ見られ、そのことが原因で一部に不快感を訴える人もでている。ロータリークラブの会員は、職種やその規模の大小に関係なく、全てがそれぞれ企業経営者であり、一国一城の主である。親しさを増せば増すほどに相互の人格尊重はその重みを増すものであり、戯れごとでは済まされない。これが高ずれば必ずや信頼感の喪失に繋がりがかねない。

信頼感によって会員の絆が結ばれることこそ、ロータリーであり、ロータリークラブの存立を決定づける要件である。

今、我々はこのことの重みを自分自身に問うてみる必要がある。クラブの中にこの様なモラル・ハザードを生じさせることは、例え、それが些細なことであろうと、即刻、改めなければならない。これを蔑ろにすることは更に收拾しがたいモラル・ハザードにエスカレートするおそれがある。

創立10周年を迎えようとする我がクラブにとっては、その命運さえも左右しかねない重みを感じる。クラブは会員全員の財産であり、その財産を健全に発展させる責任も会員全員にあることを知らなければならない。

(今週の担当 杉山 英巳)